

臨床使用の要点

膠飴は甘温で潤であり、補虚建中・緩急止痛・潤肺止咳の効能をもつので、労倦傷脾の中気不足・虚寒腹痛および肺虚燥咳に使用する。このほか、緩和薬性の効能もあり、草烏頭・川烏頭・附子の解毒に働く。

[参 考] 膠飴には軟・硬の2種があり、軟らかいものは黄褐色の粘稠な液体であり、硬いものは空気を混入して凝固させたものである。薬用には軟膠飴がよい。

[用 量] 30～60g，溶解して服用。膏や丸にしてもよい。

[使用上の注意] 助湿生熱して中満をひきおこしやすいので、湿熱内鬱の中満吐逆・痰熱咳嗽などには用いない。

第2節 助陽薬（じょようやく）

助陽薬は「補陽薬」「温陽薬」ともいい、陽虚を改善する薬物であり、とくに真陽不足（命門火衰）・腎陽虚に適し、心陽虚・脾陽虚にも使用する。

真陽は「一身の元陽」であり、真陽が不足して腎陽を温煦できないと、腎陽虚による元気がない・寒がる・四肢の冷え・インポテンツ・不妊・遺精・頻尿・遺尿・舌質が淡・脈が沈で無力などがあらわれる。腎が納気できないと呼吸困難が生じる。

また、真陽が不足したために、脾胃を温煦できないと脾陽虚の食欲不振・腹の冷え・泥状～水様便などが、心陽を温養できないと心陽虚の脈の結代や微弱・胸痛・自汗などが、それぞれあらわれる。

以上の症候がみられる場合に助陽薬を使用する。多くの助陽薬は補真陽・温腎壮陽・補精髓・強筋骨などの効能を備えている。

なお、助陽薬は温燥のものが多いので、陰虚火旺には禁忌である。

鹿 茸（ろくじょう）

[処方用名] 鹿茸・鹿茸片・鹿茸血片・鹿茸粉片・鹿茸粉

[基 原] シカ科 Cervidae のマンシュウジカ *Cervus nippon* Temminck var. *mantchuricus* Swinhoe, マンシュウアカジカ *C. elaphus* L. var. *xanthopygus* Milne-

Edwards などの雄のまだ角化していない幼角（袋角）。

[性 味] 甘・鹹，温

[帰 経] 肝・腎

[効能と応用]

①補真陽・益精血・強筋骨

真陽不足あるいは腎陽虚の腰や膝がだるく無力・寒がる・四肢の冷え・インポテンツ・早漏・滑精・遺尿・頻尿・不妊などの症候に、単味であるいは熟地黄・巴戟天・淫羊藿・補骨脂などと用いる。

方剂例 参茸固本丸

精血不足による腰や背中がだるく無力・四肢に力がない・頭のふらつき・耳鳴ある

いは小児の發育不良・泉門の閉鎖遅延・運動能力の發達が遅いなどの症候に、単味であるいは熟地黄・山薬・山茱萸などと使用する。

方剂例 加味地黄丸

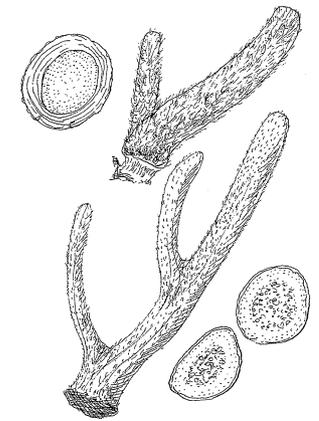
②調衝任・固帯脈

陽虚による衝任虚寒・帯脈不固の不正性器出血や白色帯下に、当帰・阿膠・烏賊骨・狗脊などと使用する。

方剂例 鹿茸散

③温補内托

陰疽（化膿傾向に乏しい慢性炎症・寒冷膿瘍など）の慢性に経過する潰瘍・フィステル・希薄な滲出などに、黄耆・当帰などと用いる。



臨床使用の要点

鹿茸は甘温で、肝・腎に入り、補真陽・益精血の効能をもち、強筋骨・温養督脈さらには調衝任・固帯脈および温補内托にも働く。真陽不足・精血虚損による畏寒乏力・眩暈耳鳴・四肢痿軟・筋骨無力・腰痛尿頻・陽萎遺精・宮冷不孕および小児行遅歯遅、さらには陽虚血少の衝任不固による崩漏下血、陰疽潰久膿清不斂などに用いる。

[参 考]

①鹿茸血片は蜜蠟色を呈するものが効能がすぐれて高価であり、鹿茸粉片（鹿茸粉）は白色を呈し効能がやや劣り価格もやや安い。

②鹿茸・肉桂・附子は補陽の効能をもつが、肉桂・附子は熱性で剛燥であり補